

「幌延深地層研究計画 令和7年度調査研究成果報告」に関する質問

確 認 事 項	回 答
■ 北海道 1 「令和 7 年度は計画していた調査研究を進めて、想定していた成果を得ることができました。」とのことですが、国内外の技術動向を踏まえて、想定していた成果を得られており、これまで行われてきた研究に遅れや不足は生じていないという認識でよいのでしょうか。	■ 北海道 1（機構回答） ご理解の通りです。 令和 8 年度第 1 回確認会議の資料 3（スライド 27/66 および 28/66）で紹介したように、令和 7 年度に開催した外部委員会（深地層の研究施設計画検討委員会、地層処分研究開発・評価委員会）においても、「年度当初の計画に沿って着実に進められている」こと、「地層処分事業に必要な技術基盤の整備が確実に進んでおることに加え、継続的に優れた成果が創出されている点を高く評価する」といった評価を受けています。 今後も引き続き、令和 10 年度までに地層処分の技術基盤の整備が完了できるよう取り組んでいきます。
■ 北海道 2 「2.2 高温度（100℃以上）等の限界的条件下での人工バリア性能確認試験」「3. 地殻変動に対する堆積岩の干渉能力の検証」については、「2.1.2 坑道スケール～ピットスケールでの調査・設計・評価技術の体系化」を実施する中で、情報の不足等があった場合に追加で試験や解析を実施する。」とされていますが、現時点で情報の不足等は生じていないのでしょうか。	■ 北海道 2（機構回答） お尋ねの、2.2 および 3. の課題については令和 6 年度までに所期の目標を達成することができ、令和 2 年度から令和 6 年度までに得られた成果を報告書として取りまとめて公表しています。これらの成果およびこれまでに構築してきた技術を、「2.1.2 坑道スケール～ピットスケールでの調査・設計・評価技術の体系化」で適用し、体系的な手法として提示していきます。現時点で情報の不足等は生じておらず、追加で試験や解析を実施する予定はありません。

確 認 事 項	回 答
■ 幌延町 1 (R7 研究成果報告書 P95 「10. 開かれた研究」について) 幌延深地層研究計画で実施する地下深部の地質環境を対象とした研究は、地球科学の幅広い分野にわたり、学術研究の発展にも寄与することから国内外の大学・研究機関との共同研究や研究協力など、広く関連する専門家の参加を得ながら進めているとのことですが、その実績を数量的（例えば、研究機関数や参加人数、延日数、機構単独分も含む外部発表件数・論文数など）に示すことは可能でしょうか？ ■ 幌延町 2 地下深部での学術的研究を行う場は、国内で幌延以外にはありますか？ありましたら、どこでどのような研究が行われているかご紹介ください	■ 幌延町 1（機構回答） 令和 7 年度の実績としては、令和 6 年度から継続している案件も含め、大学や研究機関、民間企業と 11 件の共同研究を行いました。これらの枠組みを通じて、大学や研究機関の研究者が幌延に来訪し、原位置からのサンプルの採取や原位置試験の実施、研究の進め方などについての議論を行っています。それらの成果については、報告書に概要を記載しています。 また、令和 7 年度の外部発表実績として、「幌延深地層研究計画 令和 7 年度調査研究成果報告」の付録（125 ページ以降）に掲載したものうち、幌延国際共同プロジェクト(HIP)の成果を含めた 18 件を国内外の研究協力の成果として発表しています。 ■ 幌延町 2（機構回答） 国内で、地下深部で学術研究を行っている施設としては、幌延深地層研究センター以外に、例えば下記のような施設があります。ただし、地下深部の地質環境を対象に研究坑道を利用して岩盤特性や物質移行などを総合的に研究できる施設は、国内では幌延の地下施設だけです。 スーパーカミオカンデ、KamLAND、ハイパーカミオカンデ（岐阜県） 深度：約 1,000m 概要：神岡鉱山を利用して地下に設置された世界的なニュートリノ観測施設（ハイパーカミオカンデは建設中） 地熱研究用深部坑井・観測施設（全国各地） 深度：数百 m～数 km（ボーリング調査が主体） 概要：地下温度構造、流体挙動、地震との関係などを研究

確 認 事 項	回 答
■ 幌延町 3 幌延深地層研究センターは、地層処分技術に関する研究開発を行い、成果を得ることが使命であるが、一方でその技術等について国民の理解・信頼を得ることも重要な役割であると思います。そこで、地下研究施設やゆめ地創館の見学者数の実績と一般の人が施設を見学した後、どのような感想を述べたか代表的な例を挙げてお示ください。 また、国内では、令和2年9月に、寿都町を皮切りに道内外の町村において文献調査が開始されましたが、文献調査の開始前後で、地下研究施設やゆめ地創館の見学者の増減はあったか教えてください。	■ 幌延町 3（機構回答） 見学者数の実績は、令和8年度7月末現在で地下施設が約700人、ゆめ地創館が約4600人です。令和7年度の見学者数は地下施設が約900人（累計で約1万7000人）、ゆめ地創館が約7000人（累計で約15万人）でした。 また、地下施設見学会に参加した方へのアンケートの集計結果では、98%以上の方から、理解が深まったとの回答を得ています。 見学者された方のご意見・ご感想では、 ・ よく知らないまま危ないものと思って周りに流されて反対してましたけどちゃんと見てみて価値観が変わりました。 ・ ここで処分しているとずっと誤解していた。誤解がとけてよかった ・ 原子力については汚染水くらいしか知らなかったので、安全に処分する取り組みをオープンに展示していて良かった。 ・ 反対意見が多々あるのもよくわかりますが、ここにきて安全への取り組みを学べば考え方も変わる人がいるかもしれません。 という声がある一方、 ・ 将来地層処分したものがどうなるのかを見る事が出来ない。あまりにも長い計画の為、何が最善なのか分からない事が課題だと思う。 ・ 知らない事への不安が多く国民にあると思う。興味のある人以外にウェブ等を検索しないのでわかりやすく発信しつづける事が重要だと思う。 といった声もいただいています。 このようなご意見、ご感想も踏まえ、引き続き一般の方にも分かりやすい情報発信に努めていきます。 なお、見学された方から頂いたご意見・ご感想は、定期的に幌延深地層研究センターのホームページに掲載している他、ゆめ地創館にも掲示しています。 幌延深地層研究センターホームページ：お客様の声 https://www.jaea.go.jp/04/horonobe/disclosure/voice/